

埼玉県消防学校再整備基本構想 概要①

背景・目的

- 災害の激甚化・頻発化が顕著となり、消防職員及び消防団員はこうした変化に的確に対応できるよう、消防学校での教育訓練の充実強化が急務となっている。
- 本基本構想は、DXを最大限活用して、教育訓練施設の充実・機能強化や環境整備などを整理することを目的としたものである。

現状と課題

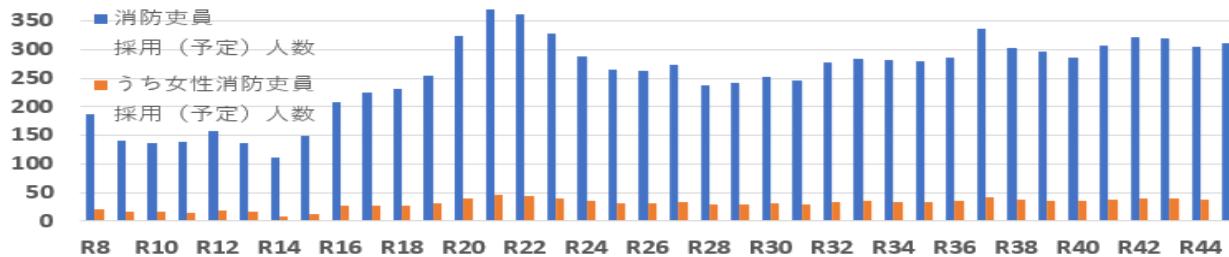
(1) 訓練施設

- 施設は設置から47年を経過し、使用できない施設もある。
- 実災害に対応した訓練施設が不十分である。

(2) 生活施設

- 寮室は、長期間の宿泊を伴う教育訓練には狭小であり、個室でないため、プライバシーが確保できない状況である。
- 女性、性的マイノリティに配慮した誰もが快適に学習できる環境が必要である。(男性用：4人部屋で計24m²、女性用：2人部屋でユニットバス付き)
- 令和16年度以降、定年退職や若年層の離職により、定員(280名)を超える入校者数が見込まれる。

(入校者数は、消防を取り巻く環境の変化を踏まえて改めて検討する。)



初任教育の入校者数の今後の推移(見込み)【R7.4調査】※現在の職員数を前提に積上げ

(3) 校舎棟等

- 現場活動に支障をきたさないよう教育訓練期間の短縮や繰り返し学び習熟度を向上させるため、DXを活用した学習環境を整備する必要がある。
- 女性、性的マイノリティに配慮した誰もが快適に学習できる環境が必要である。

再整備の基本方針

消防学校を核とした災害対応能力の強化と ジェンダー視点に立った学習環境の整備

基本方針を踏まえて、以下の3本柱を念頭に再整備を進めていく

① DXを活用した学習環境

オンライン・オンデマンドによる教育やデジタル技術を活用した実技訓練を実施

② 実災害に対応した高度な技術の習得

実災害に対応するため、危険な訓練を安全に実施するため環境を整備

③ ジェンダー視点に立った学習環境

女性、性的マイノリティに配慮した誰もが快適に学習できる環境を整備



消防教育の充実

新たな訓練施設の整備に加え、DXによる入校期間の短縮など生み出した時間を活用して、新たな教育6学科を実施する。また、土木的工法による救助技術訓練を実践する。

(1) 新たな教育の実施

危険学科、瓦礫救助研修、土砂災害研修、ドローン操作研修、高所・低所作業救助研修、水災害研修

(2) 教育内容の充実

救助科と特殊災害科の同時開催により実践的な多数傷病者対応訓練の実施



埼玉県消防学校再整備基本構想 概要②

再整備の方向性

(1) 訓練施設 新 : 新たな訓練機能 強 : 訓練機能の強化

施設名称	整備イメージ
新震災訓練施設	生き埋めになった要救助者の検索、救助訓練を行う実践的な施設
複合層高層訓練塔実火災訓練施設	実火災に近い環境下で消火訓練や燃焼実験が可能な施設
強強濃煙熱気訓練室	濃煙高温の環境を再現した建築物での救助訓練が可能な施設
複合層高層訓練塔新堅坑・横坑訓練施設	冠水（水没）環境を再現した実践的な救助訓練施設
新山岳救助訓練施設	山岳現場、傾斜地等の転落事故を想定した実践的な訓練施設
強水難救助訓練施設	ゲリラ豪雨等を想定した冠水車両の救助訓練が可能な施設
強全天候型屋内訓練施設	車両の乗り入れ、放水訓練や救助訓練が可能な全天候型施設
新救急実習室	救急車の現場到着から一連の救急活動を想定した実習室



(2) 生活施設

整備イメージ

- 個室を想定し、同じフロアに共有スペースを設ける。
- 男女でエリアを分けて整備するが、男女どちらにも変更可能な構造とする。



(3) 教育施設

整備イメージ

- DXのための通信環境を整備する。
- 女性、性的マイナリティに配慮した誰もが快適に学習できる環境を整備する。
- 現在の校舎棟は敷地中央に配置されていることから、整備内容の検討に当たっては、専門家の技術的な助言などを踏まえ、訓練機能、教育機能、緊急消防援助隊の受入機能に支障が生じないよう施設全体の配置にも十分留意する必要がある。
- そのため、消防教育のDX化を前提とし、学校教育の継続やライフサイクルコストの視点を踏まえ、敷地面積を有効に活用するため、全面的な建て替えや改修を含めた教育訓練施設全体の検討を進める。

(4) 緊急消防援助隊の受入機能

整備イメージ

- 宿泊棟などの屋内施設については、緊急消防援助隊の活動調整室や宿泊施設として円滑に活用できるようにするなど、災害時の隊員の活動状況を想定した整備が必要である。
- 屋外訓練場については、緊急消防援助隊の宿営用テントの設置、消防車両の乗り入れスペースや円滑な動線を考慮すると、施設の集約化など一体的に活用できる広い空間の確保の検討が必要である。
- 映像などリアルタイムの情報を収集・整理・共有する必要があることから、通信環境の基盤整備が必要である。



(5) 想定スケジュール

	R 8 ~ R 10	R 11 ~ R 15	R 16
施設整備	基本計画、基本・実施設計	建築工事	供用開始
教育DX	第1ステップ デジタル端末の導入によるペーパレス化 オンライン・オンデマンド教育、デジタル技術を活用した訓練の充実	第2ステップ DXと新たな施設を活用し、新たな教育6学科を実施	